

「川遊び子供から目を離さない」と表示されたサインカーとドローン
＝美濃市前野、長良川河川敷



水難事故多発地点の一つ、美濃市前野の美濃橋付近の長良川で、関署と中濃消防組合美濃消防署は、同市に支社を置くドローン事業者「ROBOZ（ロボット、恵那市）」と共に、ドローンを使った水難事故防止の啓発活動に取り組んだ。
(榎原あやな)

川の事故空から啓発

関署などがドローンでアナウンス 美濃橋付近、3言語で発信

河川敷で、両署員が日本語、英語、ポルトガル語の3言語で川遊びの注意点が書かれたチラシなどを配る中、同社の社員が高性能スピーカーを搭載したドローンを橋の下流約1キロの範囲を約10分間飛ばし「子どもだけで遊ばせない」「お酒を飲んだら川に入らない」といった注意喚起を同じく3言語でアナウンスした。同社は7月中旬～9月中旬の土、日曜やお盆休み期間に、水難事故防止やごみの持ち帰りを2年前から呼びかける。

関署によると、管内での水難事故は昨年11件発生し、死者は7人に上った。今年22日時点で水難事故がすでに6件発生し、川で泳いでいた外国籍の男性ら3人が亡くなった。